

## 第78回 文化講座

沖縄県の戦争遺跡展

～みんなで学ぼう戦争遺跡～

【日時】 令和元年6月29日(土) 14:00～16:00

【会場】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

# もくじ

## 第78回文化講座

「沖縄県の戦争遺跡 ～みんなで学ぼう戦争遺跡～」

令和元年6月29日(土) 14:00～16:00

13:30 受付開始

14:00 あいさつ 沖縄県立埋蔵文化財センター所長 城田久嗣

14:05 「はじめにー今回の講座にあたって」

調査班 瀬戸 哲也・・・・・・・・・・・・・・ 1

14:15 「分かりやすい！戦争遺跡のはなし」

調査班 大堀 皓平・・・・・・・・・・・・・・ 2

14:45 休憩

15:00 「私たちの町の戦争遺跡」

港川小学校 6年生・・・・・・・・・・・・・・ 3

15:30 「読谷の戦争遺跡」

読谷中学校平和人権委員会・・・・・・・・・・・・ 4

16:00 「おわりにーこれからの平和学習と戦争遺跡」

## 文化講座にあたって

調査班 瀬戸哲也

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、これまで沖縄県内の戦争遺跡の分布・現状を把握する調査を行ってきており、その成果を県民の皆様に公開する目的で、慰霊の日に合わせて6月に企画展『沖縄県の戦争遺跡』を実施してきました。

沖縄戦を経験した本県において、戦争体験者が減少する中で戦争遺跡は沖縄戦の実相を継承し、平和について学び考えるために重要なものであります。ただ、戦争遺跡を調査している私たちも沖縄戦を経験しているわけではありません。一方的にその成果を公開するというだけでなく、県民の皆さん、特にこれからの将来に羽ばたいていく生徒・学生の皆さんと共に学んでいくことが重要ではないかと考えました。

そこで、今回の企画展では、生徒・学生の皆さんと共に戦争遺跡を一緒にめぐって、学習していただき、その成果や感想をパネルにするという企画にしました。さらに本日は、その展示ができるまでの様子を紹介する講座を考えています。

まず、今回の学習にあたっては、当センター職員が沖縄県にある戦争遺跡について簡単な解説を行っており、今回はその実演をいたします。そのあと、実際に今回の企画に参加していただいた浦添市立港川小学校6年生、読谷村立読谷中学校平和人権委員会の皆さんに、この取り組みについての成果や感想を発表していただきたいと思えます。

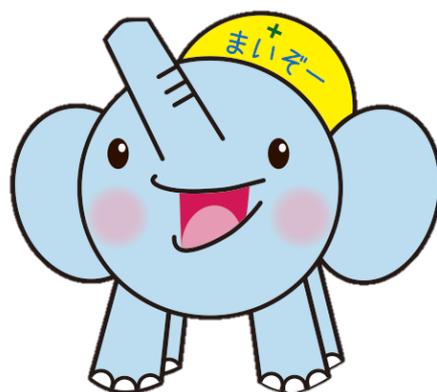
それでは、みんなで戦争遺跡について学び、戦争や平和、沖縄の過去未来について考えていきましょう。

分かりやすい!?

# 戦争遺跡のはなし



せんたーとる博士  
沖縄のことに詳しいカメ



まいぞー君  
見習い調査員

沖縄県立埋蔵文化財センター  
調査班 大堀 皓平 (おおほり こうへい)

## 戦争遺跡ってなに？



- 戦争や戦争の結果、土地に残されたもの
- 沖縄戦だけでなく、それ以前の近代の戦争に関わるものも含まれる
- 沖縄県には、1,077（平成 27 年度時点）の戦争遺跡が確認されている
- 当時使われれていた道具（戦争遺物ともいう）もある

## I 沖縄戦以前の戦争遺跡

- 沖縄県内に残る沖縄戦以前の戦争遺跡は 89 か所（平成 27 年度時点）
- この時代の遺跡には、軍隊のための施設や、日露戦争のときの遺跡が残る。
- 日露戦争の後には、愛国心を高めるための施設が多く建てられた。
- 太平洋戦争の直前には本格的な要塞も建設され、日本軍の部隊も配属された。

### 明治・大正時代の軍事施設



崎枝の海底線陸揚室跡（石垣市）

日清戦争後、台湾までの海底ケーブルと陸上の通信所を繋げた施設。

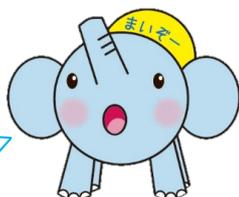
西表海軍望楼跡の遺構（竹富町西表島）

海の見張りや通信、気象観測をする施設。

日露戦争前に造られた。



沖縄にも明治時代の戦争遺跡があるんだね



## 愛国・皇民化教育に関わる遺跡



### 忠魂碑

戦死した兵隊を英霊として祀った碑。沖縄では日露戦争以降から建てられた。

写真：(渡嘉敷村の忠魂碑 (渡嘉敷村))

### 奉安殿

天皇の写真(御真影)を納めた。沖縄では昭和のはじめに造られた。

写真：美里小学校の奉安殿 (沖縄市)



## 太平洋戦争直前の遺跡



### 中城湾臨時要塞

臨時要塞とは大切な港を守るための小規模の基地。アメリカ軍の侵攻を想定して太平洋戦争の直前に造られ、平敷屋砲台跡には工事の年号が刻まれている(右写真)。沖縄ではじめて日本軍の部隊が本格的に配備された基地である。

写真：平敷屋砲台跡 (うるま市)

「十六年霜月」



平敷屋砲台復元模型 (埋蔵文化財センター)

## 遺物からみる沖縄戦以前の子ども暮らし

- 沖縄県では明治12（1879）年の廃藩置県とともに明治政府から学制及び教育令が導入されることで近代教育が開始。
- 特に女性は沖縄ではじめて読み書きを習うことになった。
- 文具以外にも、学校の暮らしに関わる遺物や遊び道具などが出土している。
- これらの道具は、日本からもたらされたものが主体。



### 遺跡から出土した戦前の文具

石筆は石盤に書く道具。硯は近代になって出土数が増加する。インクボトルやセルロイド製の文具は近代の工業化に伴って出現した。

### 学校生活に関わる出土遺物

学生服のボタンで白いものは戦中の金属不足に陥った際の陶器製のもの。前列右の天神人形は、児童の学問成就を願って置かれた。陶器碗の「師」銘は、首里城内にあった沖縄師範学校を示す。



### 戦前の遊具

近世以来のままごと遊びのミニチュア製品、今の面子の原型となった泥面子がある一方で、近代にはガラス製のおはじきやビー玉も出土するようになる。

## II 沖縄戦の戦争遺跡

○沖縄戦に伴う戦争遺跡は 988 か所に上る。

○これらの遺跡には、軍が造った様々な軍事施設だけでなく、役所や学生が造った壕など、日本軍とアメリカ軍との戦争の展開に応じた様々な戦争の痕跡が遺跡として残されている。

### 1 戦争の準備

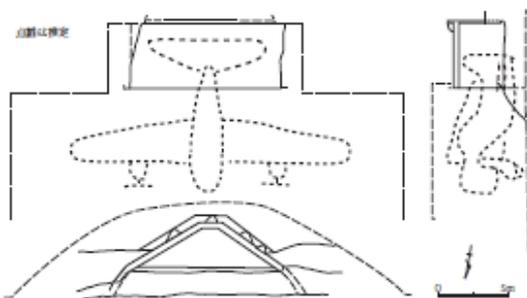
○1944（昭和19）年2月にトラック諸島をアメリカ軍が占領

○これをきっかけに、1944年3月22日に南西諸島を守るために、日本軍は第32軍を結成。

○第32軍は、南西諸島や台湾を守るために、民間人や学生も動員して、急いで空港の建設を進めていく。



発掘された小禄海軍飛行場の滑走路  
(那覇市教育委員会 2012)



高良の掩体壕跡（那覇市自衛隊基地内）



掩体壕とは、戦闘機を隠すための壕のことじゃ



小禄海軍飛行場（現那覇空港）  
国土地理院所蔵

- 1944（昭和 19）年 6～8 月のアメリカ軍の攻撃でサイパンが陥落。
- その結果、空港を使う作戦をやめて、アメリカ軍の上陸に備える作成に変更。
- 住民だけでなく小学校高学年生まで動員して基地建設を急ぐ。



この結果、一生懸命造った空港はほとんど使われることはなくなったんじゃない

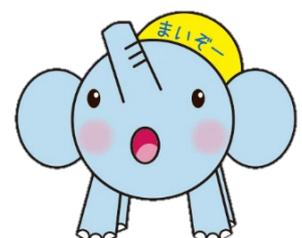
## 水際陣地



左上：外から見た様子    右上：陣地内部  
 左下：陣地内の銃眼  
 右下：銃眼からみた海岸

写真：タカシカバーの銃眼（宮古島市）

上陸する直前を攻撃するための基地なんだね



## 砲台跡



写真：当間海軍砲台跡（那覇市）



砲台跡は沖縄戦でたくさん造られたが、今も大砲が残っているのはこの遺跡だけなんじゃ

## 特攻艇秘匿壕群

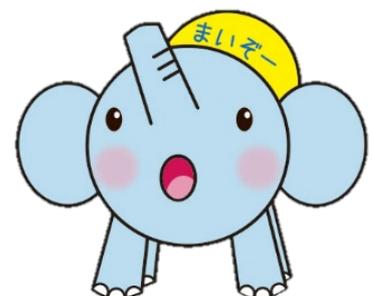


ベニヤ製の特攻艇（長さ 5 m 程度）

大田昌秀『総史沖縄戦』より

写真：比謝川沿いの特攻艇秘匿壕群（読谷村）

特攻艇は、一人が爆弾を積んで軍艦に特攻する小型の舟のことだよ。



## 学徒隊壕



学徒動員が本格的になって、学校の先生や生徒も壕を掘ったんじゃ

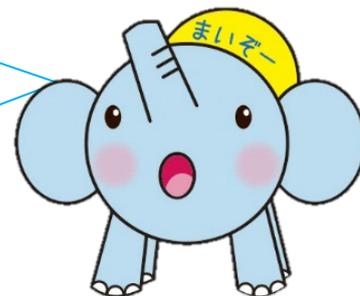


写真：留魂壕（那覇市首里城内）



壕内で発見された、新聞作りで使った道具

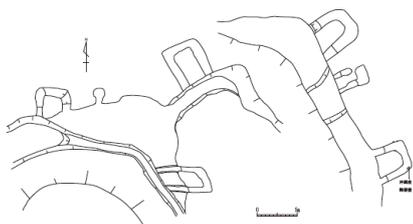
この壕では新聞社が新聞作りもしていたんだ



## 2 住民たちの防空・上陸戦対策

1944（昭和19）年10月10日に大規模な空襲（「10・10空襲」）で大きな被害。アメリカ軍の攻撃のすさまじさを実感して、軍は新たな基地の壕、役所も地下壕を作る動きが加速。住民にも避難壕作りや疎開が積極的に行われた。

## 防空壕



屋敷の中や川沿いに多く造られたんだよ



写真：根路銘の防空壕跡群（大宜味村）

### 3 地上戦を物語る戦争遺跡

- 1945（昭和 20）年 3 月から空襲や戦艦からの砲撃が激化（「鉄の暴風」）。
- アメリカ軍は 3 月 26 日に慶良間諸島に上陸、31 日には占領を宣言。
- そして 4 月 1 日にアメリカ軍は読谷村に上陸。



日本軍の作戦は、日本本土で戦う準備をするための時間稼ぎじゃった

#### 弾痕跡



写真：愛楽園貯水タンクの弾痕（名護市）



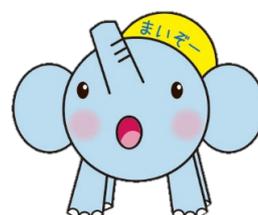
写真：公益質屋跡の弾痕（伊江村）



写真：伊祖神社鳥居の弾痕（浦添市）



空襲や艦砲射撃の激しさが伝わってくるね



## 病院壕



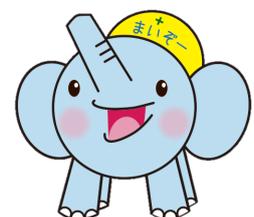
### 沖縄陸軍病院南風原壕群（南風原町）

ジメジメした壕の中で治療が行われた。沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の生徒（ひめゆり学徒隊）が看護活動を行った。



戦争遺跡では日本で初めて指定文化財になったんじゃ

壕の中を見学できるよ



#### 4 沖縄戦の終結から戦後へ

- 1945（昭和 20）年 5 月 27 日に日本軍は南部に撤退。同行したりすでに避難していた住民も巻き込まれる。
- 6 月 23 日に日本軍の組織的な戦いは終了。
- しかし司令官の命令もあり、9 月まで残った部隊が戦いを続けたことでさらに被害が拡大した。

#### 収容所跡



アメリカ軍は上陸した  
4 月以降、各地に作っ  
た収容所に捕らえた  
兵隊や住民を収容し  
たんじゃ



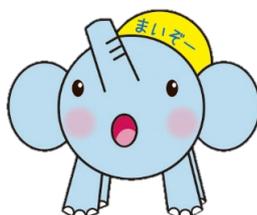
大浦崎収容所跡（名護市米軍キャンプシュワブ内）

#### アメリカ軍の基地建設



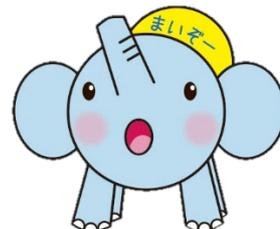
牧港飛行場の建設（1945 年 7 月）  
（今のキャンプキンザー）

沖縄で戦いながら基  
地を造っていたんだ  
ね。



## 5 沖縄県の戦争遺跡のこれから

戦争遺跡って、現地に戦争の色々な証拠を残しているんだね



それに戦争遺跡は沖縄戦のことだけでなく、沖縄の歴史を知るためにも大切なんじやが、どうやって残していくか課題となっておるんじや

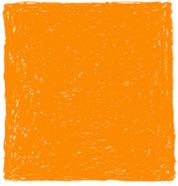
戦争遺跡を未来に残すためには、沖縄に暮らす一人一人が考えることが必要なんだね。



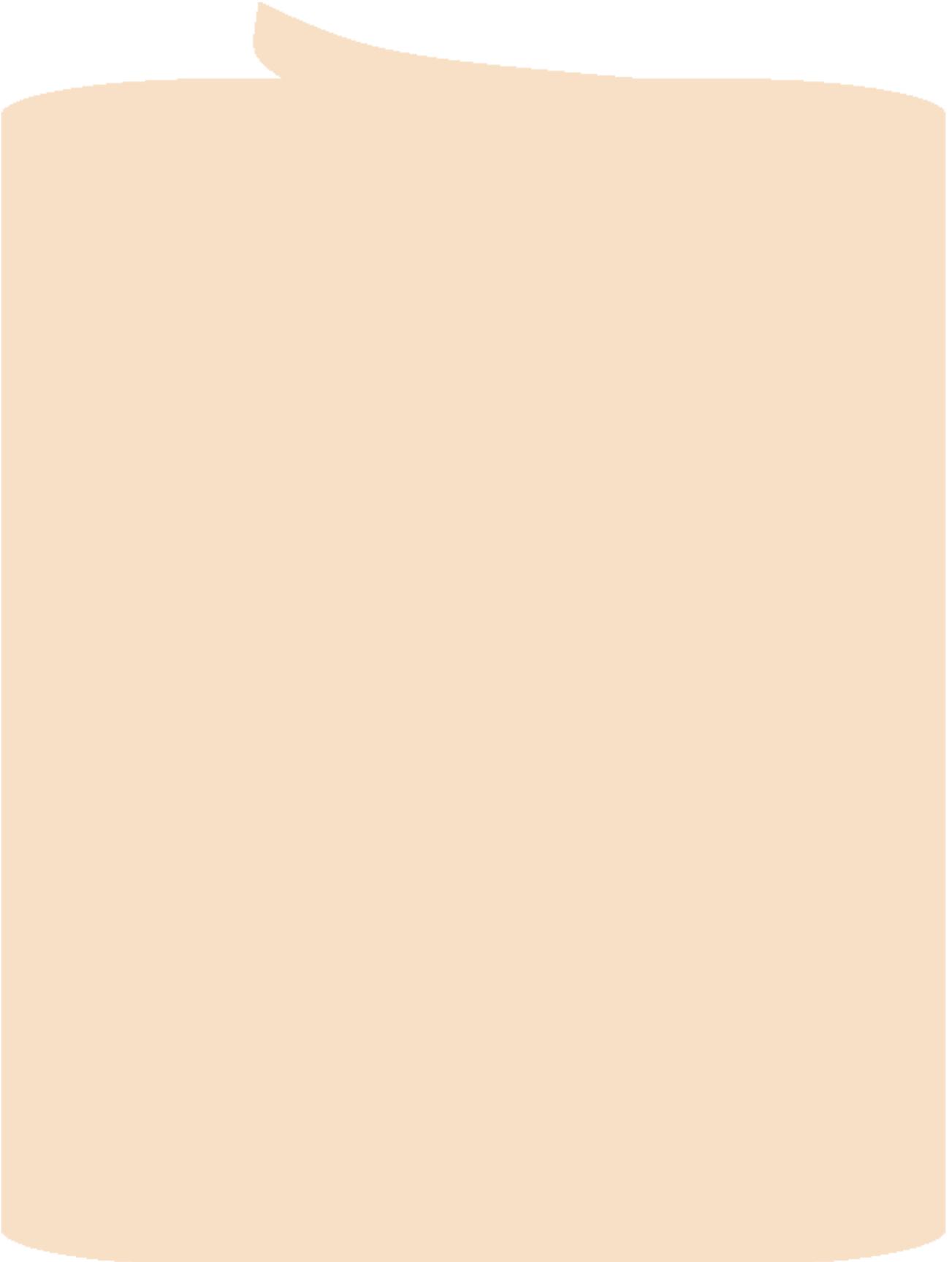
### ～戦争遺跡をもっと知りたい人へ～

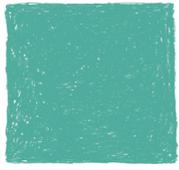
- 沖縄県立埋蔵文化財センターでは、毎年6月に「沖縄の戦争遺跡展」を開催しております。
- 今回の発表や資料に掲載されている写真をはじめ、戦争遺跡の報告書、これまで開催してきた図録は、下記のホームページで見ることができます。

国立奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」  
(<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>)

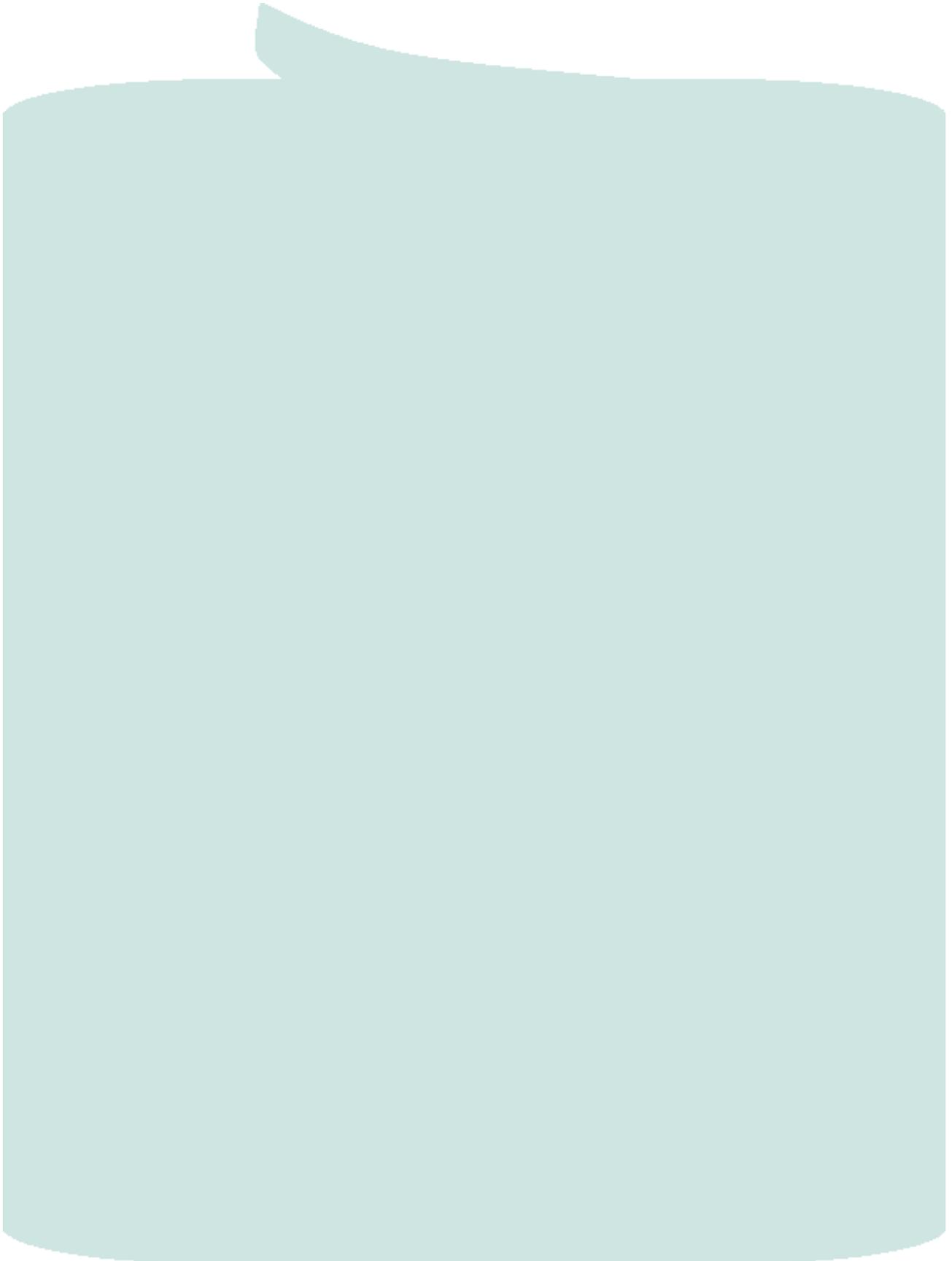


# 「私たちの町の戦争遺跡」 港川小学校 6年生





# 「読谷の戦争遺跡」 読谷中学校平和人権委員会



## 次の催し

### ◆◆発掘調査速報2019◆◆

日時：7月30日～9月1日

9:00～17:00

（入所は16:30まで）

### ◆関連講座◆

文化講座「発掘調査速報2019」

日時：8月10日(土)

開講13:30

（13:00開場・受付）

場所：当センター研修室

予約不要・参加費無料 先着140名

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751

【開所時間】 午前9時～午後5時（入所は午後4時30分まで）

【休所日】 毎週月曜日、国民の祝日（こどもの日、文化の日を除く）  
年末年始、慰霊の日（6月23日）

※月曜日が祝日となった時は、翌日の火曜日も休所



